

# Dre Wapenaar LECTURE

Dre Wapenaar / ドレイ・ワーペナー

1961年 オランダ、Berkel&Rodenrijs 生まれ。

1994年から、アーティスト・イニシアティブ組織 Duendeの活動に関わる。

ドレイ・ワーペナーの作品はいつもテントで作られている。それはとても実用性に富んでいて、アートのためのアートではなく、世の中の必然性を変換し得た作品である。デザイン性も優れており、公共の場に設置された彼の作品は、大きな存在感を放っている。その中で出会う人々による、情報あるいは物品の往来で、作品だけで孤立することなく、外の社会との関係を保っている。

彼は今、作家の相互の交流を図る国際交流展 Puddlesへ参加するために来日している。これはその滞在制作期間に彼を招き、行われる、学生を対象としたレクチャーである。アーティスト・イニシアティブについての話は、アーティストとしての自立の方法を模索している人達に、一つの方法を提示してくれる事となるだろう。

## 1、アーティスト・イニシアティブについて

Dre Wapenaar が所属する Duende は、アーティスト自身が主体となって運営される組織である (アーティスト・イニシアティブ) 彼の経験をもとに、アーティスト・イニシアティブの現状とこれからを話してもらいます

## 2、Dre Wapenaar 作品紹介 (スライド、ビデオにより紹介します)

## 3、質疑応答

レクチャー終了後、東京芸術大学油絵科・壁画科修士生、先端芸術表現科学部生を交えて、それぞれの作品を見てまわりながらディスカッションを行います。

1999/12/11 SAT 13:00 ~ 16:00 (参加無料)

12/8(水)~12(日) 10:00~16:00 「coexistent space-共存する空間-」の展示も行っています。

場所：東京芸術大学美術館 取手館 ホール

JR取手駅東口より大和交通バス「北方車庫行き」で約15分「東京芸大前」下車

連絡先：090(9144)0136 (佐々木)

主催：東京芸術大学美術学部先端芸術表現学科

企画制作代表：東京芸術大学美術学部

先端芸術表現学科1年 佐々木 友紀